

幕末の愛鳥家海防城主・山野辺義観よしのみ

—— 日立市・助川海防城跡

水戸藩幕末の騒乱を描いた大佛次郎おほぶつじらうの小説「夕顔小路」の「風」の章で、日立市の助川海防城の攻防戦が克明に記されています。

それは尊王攘夷を旗印にしたいわゆる天狗党と保守派・諸生党による助川海防城の城取合戦のひとつですが、もともとはこの砦は水戸藩の九代藩主徳川斉昭が家老・山野辺義観に海防惣司という役職を与えて天保七年(1836)に築かせた砦でした。

諸外国からの領海侵犯に備えた「海防」だけを目的とした砦で、水戸藩の領海上を一望に見渡せる城郭を五年の歳月を掛けて完成させたものでした。

海防「城」というだけあってその規模は壮大でした。総面積約68万平方メートルもあり、所領は一万石という大名クラスの規模を誇りました。



海防城主となった山野辺氏は、砦内に「養正館」という施設も開設しました。家臣たちの子弟を教育するための学校で、これは水戸の弘道館の四年前に開設されたという先駆的な学校です。山野辺氏には水戸藩に脈々と受け継がれていた教育の気風があったのです。

その砦は幕末の混乱、さらには第二次世界大戦での日立への艦砲射撃などの被害を受けて往時の姿は、わずかばかりの石段を残すのみとなりました。

しかし、桜の古木に囲まれた助川海防城跡公園の片隅に「鳩石」という石が残されています。庭石に鳩の形が丁寧に彫り込まれたもので、義観が可愛がっていた鳩の死をいたんで自ら彫り込んだものと言われています。

海防という厳しい仕事を与えられた義観ですが、鳥を愛する優しい心をもった城主の思いのこもった鳩石。現代に日本の穏やかな海への平和を望む気持ちを伝えているようです。



〈参考文献〉大佛次郎著「夕顔小路」ほか



【問い合わせ】日立市観光協会 TEL.0294-22-3111
【所在地】日立市助川町内
【アクセス】JR常磐線日立駅より「城南台」行きバス約12分「鳩ヶ丘」下車。
常磐自動車道日立中央ICから国道6号終て約12分(駐車場なし)

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>